

令和7年度茅ヶ崎市環境審議会 第2回温暖化対策分科会（WEB会議）会議要旨

日 時： 令和7年8月1日（金）10時から11時45分まで  
場 所： 茅ヶ崎市役所 本庁舎4階 会議室3（市役所での参加、傍聴場所）  
出席委員： 大河内委員、西野委員  
（WEB会議により出席）瀬戸委員、山田分科会長  
欠席委員： 山本委員  
出席職員： 【環境政策課】柳下課長、松本課長補佐、眞井主査、今井主任

- 1 茅ヶ崎市環境基本計画年次報告書（令和7年度版）の評価  
及び茅ヶ崎市環境基本計画の政策評価について  
政策目標5（施策⑳～㉓）について事業評価を行った。  
→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）  
また、政策目標4について再度確認を行ったが、新たな意見はなし。

【施策⑳ 学校における環境教育の充実】

【評価できる点】

- 出前授業の回数が増えており、アウトリーチ型の取り組みを実施している点は評価できる。  
出前授業の回数増加の要因や中身の充実度については、どう考えているか。
- 環境学習ニュースやスクールエコアクションを利用した学校側への発信等、今までの地道な  
情報発信が実を結び、出前授業の依頼件数自体が増えたと考える。実施回数だけでなく、依  
頼者側のニーズに合わせた授業が実施できるよう中身の充実も図っていききたい。
- 市ホームページを利用し、コンスタントに情報発信している点は評価できる。
- 様々な活動や記録のアーカイブ化ができていく点は評価できる。

【今後検討すべき課題】

- 授業実施後の効果検証、できる範囲での情報収集が必要である。
- 効果検証には、参加者の声を拾っていく努力が必要である。
- それらの声を内容にしっかり反映していくアウトリーチの工夫を行うべきである。
- 「ちがさきエコスクール」のアクセス数が200件以上減少した理由は何か。
- 件数の分析がなかなか難しいのが現状だが、更新頻度を増やし、アクセスを促進していき  
たいと考える。

【施策㉑ 地域における環境学習機会の拡充】

【評価できる点】

- 学習機会の維持や確保に努めている点は評価できる。
- 庁内連携が行われている点は評価できる。
- どのポイントに焦点を合わせて、市民や地域に対して環境学習の機会を提供するかが分かり  
やすく工夫されている点は評価できる。

【今後検討すべき課題】

- 受け手側の意見を聴取、把握することが必要である。
- 受け手側と提供側の双方のコミュニケーションが常にできるような環境を作るべきである。
- 市民がボランティア等に参加する際、団体や組織という形の活動ではなく、個人単位で、自  
分のスタイルやタイミングで参加したいという声が増えている。参加障壁を下げる工夫が必  
要である。そのためには、成果が分かったり、楽しそうだったり、感覚的に参加できるよ  
うなアピールも有効と考える。

【施策㉒ 庁内の環境意識の向上】

#### 【評価できる点】

- OC-EMSに基づく庁内管理が行われた点は評価できる。
- 庁内が一体となって環境活動に取り組んでいる点は評価できる。
- 職員を様々な研修に派遣し、学習や学びの機会を増やしている点は評価できる。

#### 【今後検討すべき課題】

- エネルギー消費量が減らない現状がある。対策として、システム等ハード面での改善の余地があるため検討すべきである。
- 職員の意識や行動の変化に対して、評価する仕組みをつくる必要がある。
- 情報の共有化を庁内と市民に対して進めていくべきである。

#### 【施策⑳ 環境に配慮した活動への支援】

##### 【評価できる点】

- 情報発信の取り組みが積極的に行われている点は評価できる。
- 市民と協力した「市民参加型」の調査を行っている点は評価できる。
- 支援やサポートが継続的に行われている点は評価できる。

##### 【今後検討すべき課題】

- 市民や事業者に対して啓発方法の整理、仲介窓口や受付対応先の集約によって、環境活動の支援が進むのではないか。
- 参加者の参加や関与の仕方を把握し、更なる工夫が必要である。
- 市は、直接的に活動機会を提供するだけでなく、市民と環境活動を繋げる仲介活動の工夫も行うべきである。

#### 【施策㉑ 環境に関する情報の発信】

##### 【評価できる点】

- ちがさきエコネットやホームページを利用する等、情報発信をきちんと行っている点は評価できる。
- 環境フェアを活用し、最大限情報発信している点は評価できる。
- 庁内連携を行って広報活動が行われている点は評価できる。
- 環境フェアの参加者数は計画策定時から増えているが、参加団体数が減っている点について、どのように評価しているか。
- 参加団体は、高齢化等の理由により減っている現状があるものの、イベントの実施方法の工夫等により参加者数が増えている点で、イベント自体は好調と捉えている。

##### 【今後検討すべき課題】

- 入口の興味関心の工夫による環境フェアの参加者数や団体の維持が課題である。
- ちがさきエコネット等の継続的なPRが必要である。
- 既存のテキストや資料配布の活用について、工夫や改善の余地がある。
- ちがさきエコネットのアクセス数が下がっているが、どのような印象を受けているか。
- リニューアルによりカウント方法が変わったため、2か月程度は影響を受けた。一方、新規ユーザー数は、高い推移で増えている。既存ユーザーに対してのアプローチの工夫が必要だと感じているため、インスタグラムを利用してちがさきエコネットへ誘導する発信等、挑戦しているところである。

##### 【全体を通しての意見】

- 若い人も環境に関心を持っている人が多い。その方々が活躍できるような場を市で用意していくことが、今後の環境活動の発展には必要。年齢や年代にあわせたPRをすべきである。
- 小中高は、学校での環境教育があるが、大学生やZ層はなかなか環境のことを忘れてしまう。その世代へのアプローチといった意味でも、きっかけになりそうな市内で活動している方々をうまく巻き込むアクションが必要である。
- 政策目標5に関する環境学習や環境活動に触れる機会について、数字だけによらない評価が残っている点は積極的に評価していいと考える。定性的な評価軸があることで多様性があり、工夫や検討の余地が幅広くあるため、まだまだ開拓できる強みだと考える。

## 2 その他

事務局より第3回温暖化対策分科会の案内を行った。

日 時 令和7年8月8日（金）10時から

場 所 茅ヶ崎市役所本庁舎4階 会議室5

### ■配付資料

資料1 事前評価シート（温暖化対策分科会）

資料2 政策評価意見シート（温暖化対策分科会）

別紙1 事前評価シート（温暖化対策分科会）補足資料

別紙2 政策評価意見シート（温暖化対策分科会）補足資料